

記者発表説明資料2025.12.24

自治体連携プラットフォーム構築事業について

－ 地域共創社会の実現に向けて －

四万十市

阿蘇市

八代市

(一社) SCBラボ

崇城大学IoT・AIセンター

地域社会の現状

- 首都圏への一極集中，人口減による人手不足や財政難等に起因した地域社会の疲弊（2040年問題）
- 失われた30年による地域社会の疲弊
- 地域共創社会の実現が急務（自助・公助から共助へ）

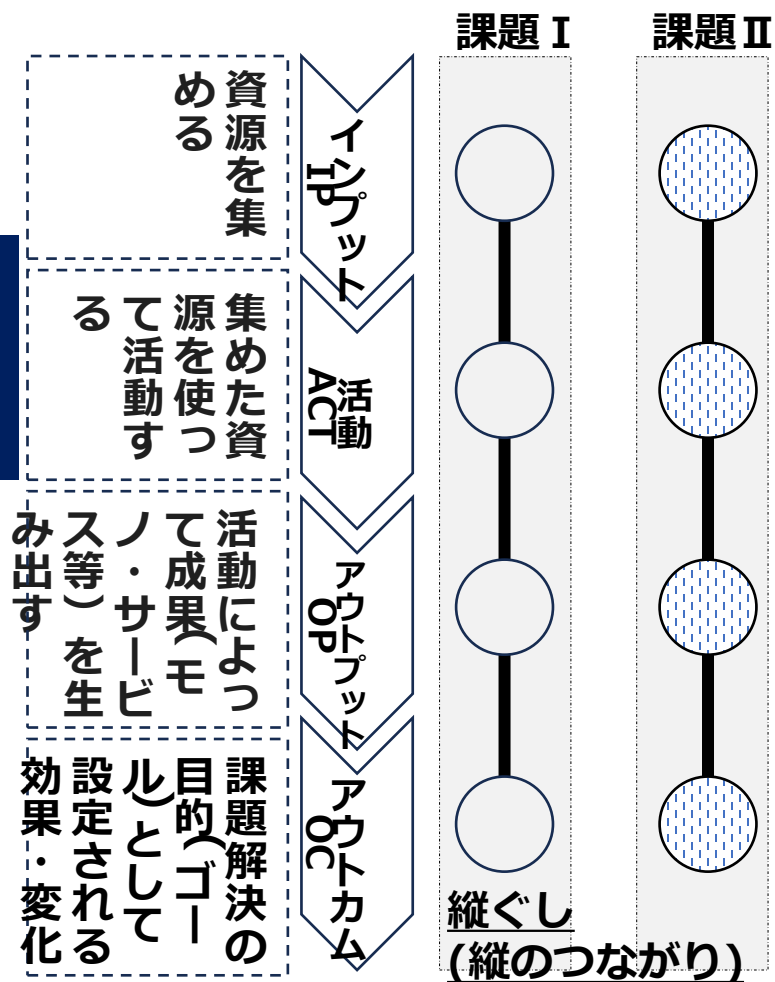
地域共創社会とは？

行政だけでは対応しきれない複雑な社会課題に対し、
企業・教育機関・金融機関・住民・NPOなどが連携・
協働して、地域の**課題解決**と**新たな価値創造**
(イノベーション)に取り組むことを目指す社会

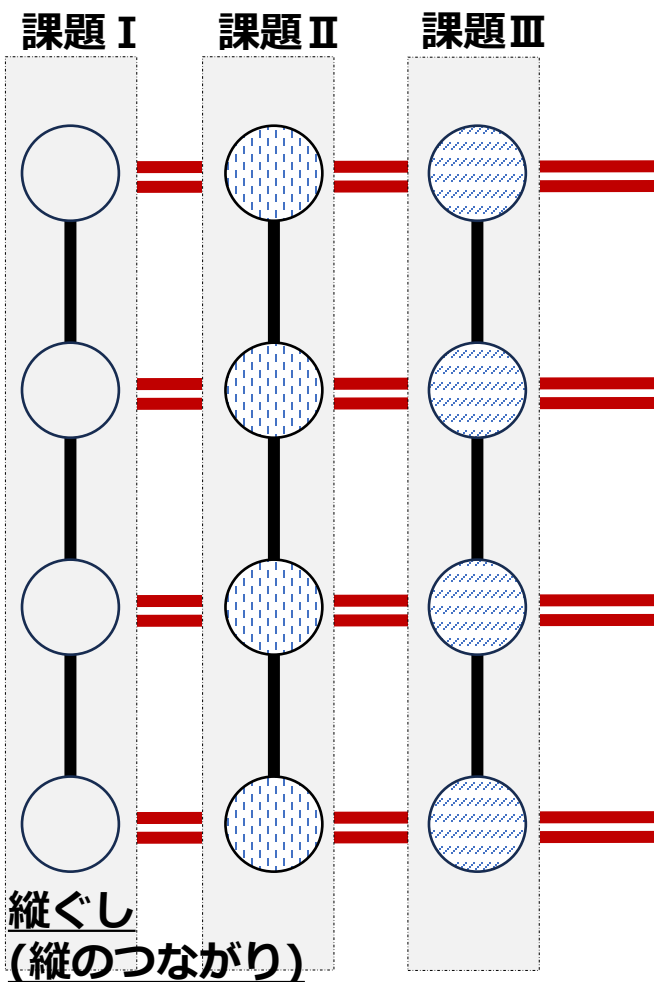
課題解決とイノベーション



地域課題の解決（ロジックモデル）



新たな価値の創発（フレームワーク）



ゆるやかな
つながり理論
(P2P・SCB理論)

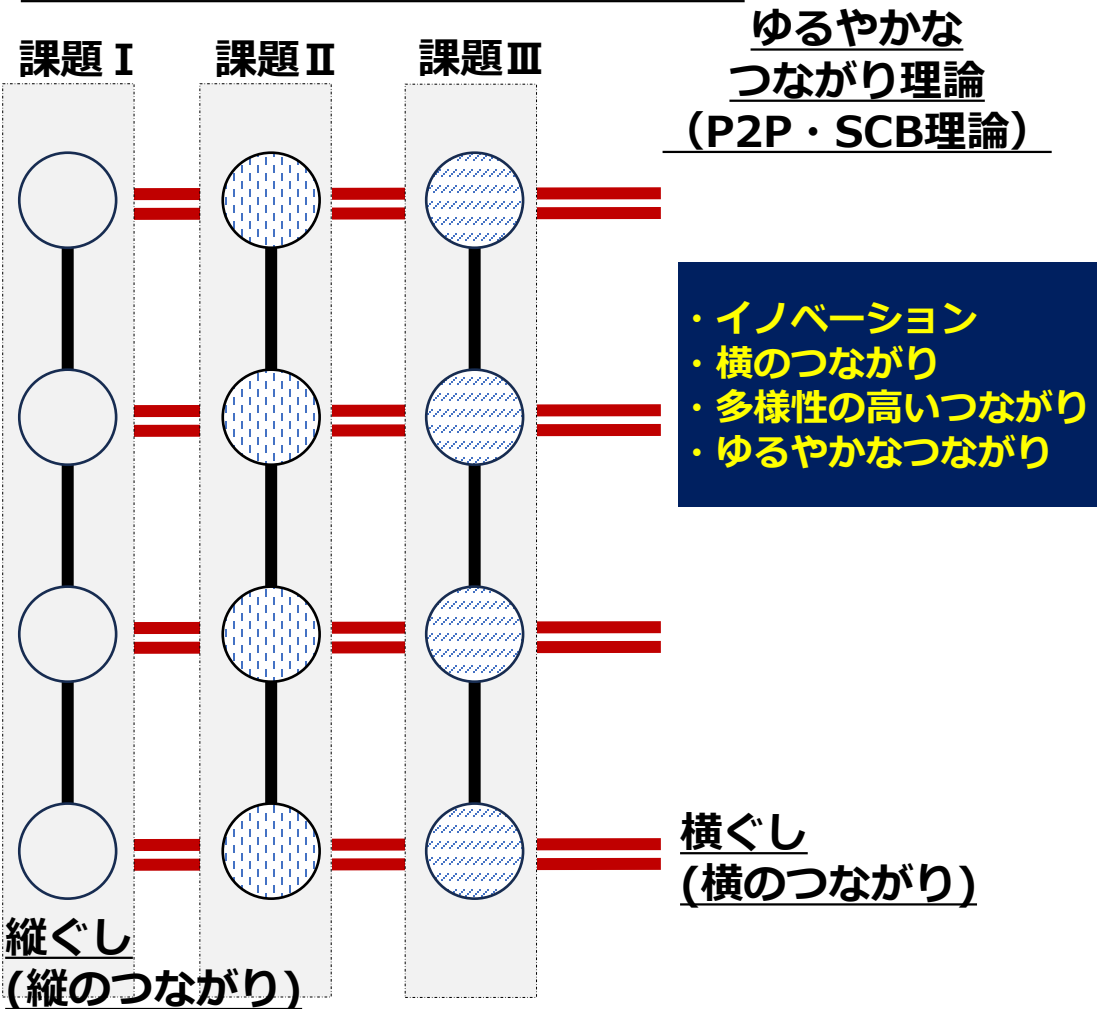
- ・イノベーション
- ・横のつながり
- ・多様性の高いつながり
- ・ゆるやかなつながり

横ぐし
(横のつながり)

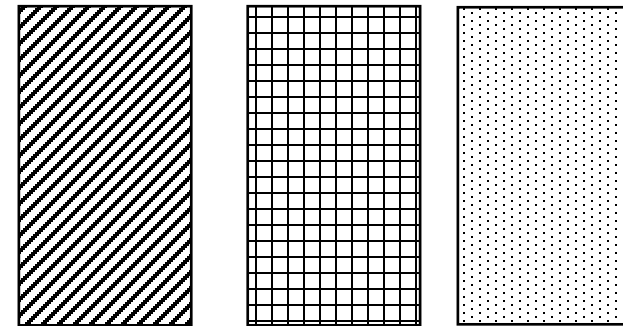
- ・課題解決
- ・縦のつながり
- ・同質性の高いつながり
- ・つよいつながり

プラットフォーム化の効果

新たな価値の創発（フレームワーク）



課題解決の活動

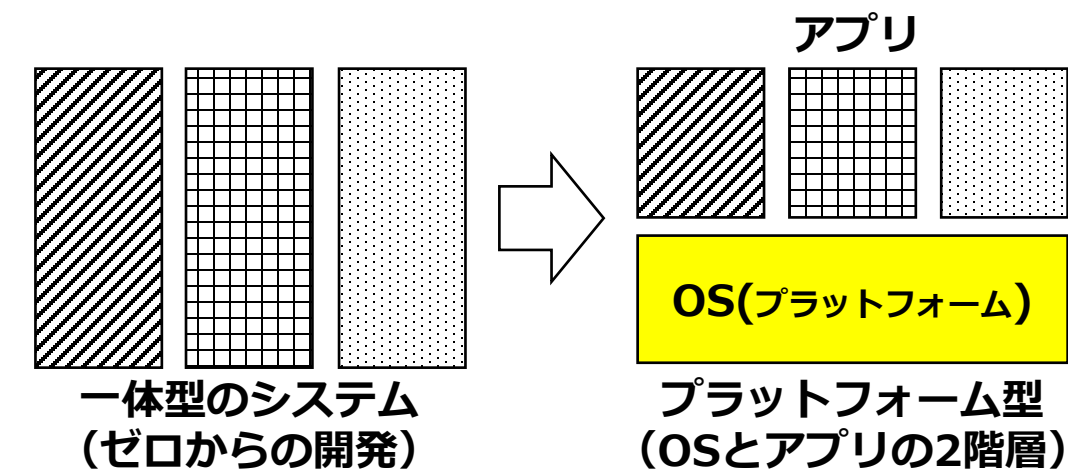


プラットフォーム

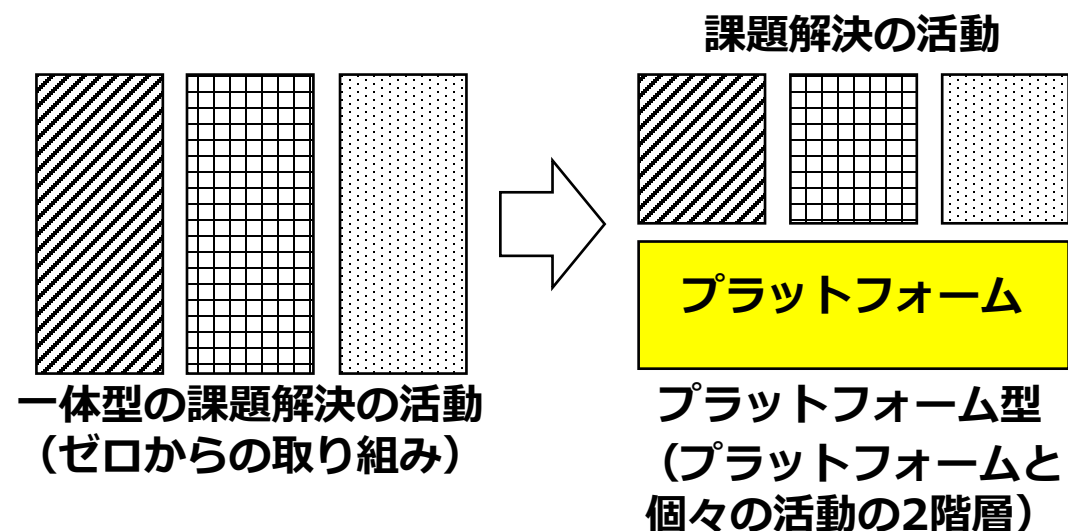
プラットフォーム型
(プラットフォームと
個々の活動の2階層)

- 課題解決の低コスト化・効率化
- 活動同士の連携の促進
- 新たな価値創発（イノベーション）
- 活動の可視化

プラットフォームの重要性



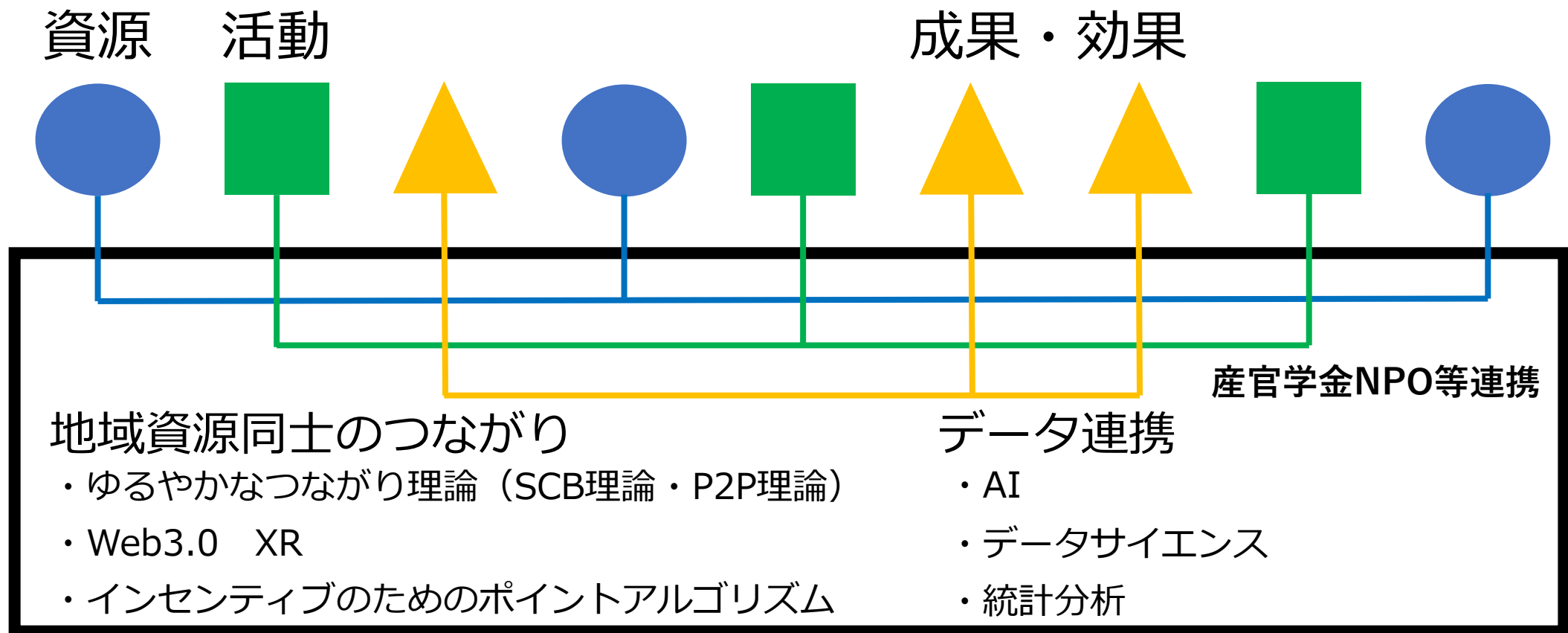
- システム開発の低コスト化（期間短縮，開発要員削減，開発費用削減）
- OSを介してアプリケーション同士が容易に連動・連携



- 課題解決の低コスト化（期間短縮、人員削減、費用削減）
- プラットフォームを介して活動同士が容易に連動・連携

自治体連携プラットフォームの構成

- 地域課題の効果的な解決
- 新たな価値の創発（イノベーション）



自治体連携プラットフォーム

3市が中核自治体として

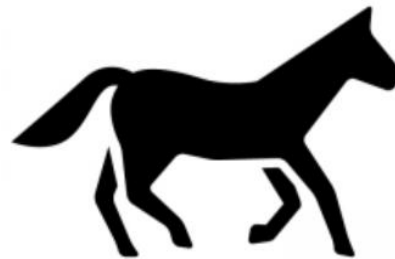
- 3市が中核自治体としてプラットフォームを構築
- 3市による合同記者会見（2025.12.24 16:30～ 阿蘇市役所）

課題解決

新たな社会的価値創発



四万十市



阿蘇市



八代市

熊本市，人吉市，甲佐町，湯前町，山鹿市，静岡県松崎町，長野県飯山市
長崎県西海市，神奈川県真鶴町，福井県高浜市 など

30自治体による自治体連携プラットフォーム

推進体制

自治体連携プラットフォーム協議会 (自治体連携プラットフォーム・ゆるやかな学びの場)

会長：山下市長
顧問：松嶋市長
顧問：小野市長

プロジェクト マネージメント

正：星合隆成(崇城大)
副：内村安里(株スカイディスク)
副：早田啓考(株式会社F)
副：忽那有記(九州ソフトス社)
副：筒口 拳(崇城大)

事務局

株式会社フォーバル

自治体連携推進部会 産官学金NPO等連携

正：中 洋介(四万十市)
副：田中邦典(四万十市)
副：坂田知彰(阿蘇市)
副：小林和也(八代市)

システム開発部会

正：富山孝治(システムフォレスト社)
副：早田啓考(株式会社F)
副：永木賢士(株ワイズビスポーク)

イノベーション・DX人材育成部会

正：渋谷勝也(NTT西日本)
副：内藤 豊(SCBラボ)

SCB理論推進部会

正：星合隆成(崇城大)
副：忽那有記(九州ソフトス社)

実施計画（線表）

